

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を考慮し4か条をあげており、ホーム内要所に提示し、入居者・家族・訪問の方々にも見て頂ける様している。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日のミーティングに於いて、理念に添った生活が実践できるよう話し合いを持っている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域への交流は入居者の方を交え実践へと向かっており、ご家族と地域の方にも取り組みの意義を伝え、理解を求めている。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	閑静な住宅街である為、ホームからの発信に努めている。外出時にはお互いが笑顔で挨拶しあえ、住民からの訪問もありお茶を一緒に頂いたりとした生活が送れている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	広く地域の清掃や隣組の行事に参加出来ており、母体の大きな行事、学習会等にも声かけし参加して頂いている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>母体であると特養と、地域交流センターを通じて地域の方々に行事のお誘いをしている。地域からの要望もあり、災害等に於いても、事業所として受け入れの体制を整える等を伝えている。</p>	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>職員の中には初めて耳にする者もいたが、当事業所での自主評価が行われた為評価への意義は多少なり掴めたかと思うが、これからも評価を活かしたケアに取り組む様話し合っていきたい。</p>	<p>○ 評価の意義を話し合っていく。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議に於いては、毎回保険者、地域包括、家族、地域住民、入居者の参加があり、いろいろなご意見を頂いている。ホームより検討事項については、結果・経過報告を都度行っている。</p>	
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>大牟田市からの発信・警鐘もあり、会議等には参加させて頂いている。情報交換も随時行い、あんしん介護相談員の意見交換会も毎回出席している。</p>	
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>所内及び母体に於いての学習会を行う予定をしている。今後状況変動により利用する方がいる可能性を踏まえている。</p>	<p>○ 社会労務士より学習会の開催を依頼する。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>日々ケアの中で、職員が理解出来る環境作り、学ぶ機会を持ち、注意すべき内容を重視している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面についての内容は詳細に説明を行っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	母体・ホームへの意見箱設置を行って準備体制はとっている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	健康状況、日々の生活状況、職員の退職・採用等は面会時に行っており、早急に報告内容は電話にて連絡している。預かり金は家族より確認のサインを頂いている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、会話の中からのいろいろなご意見・要望等を頂ける様な環境を作っている。ご家族からの意見はスタッフへ伝達し、改善に向けている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見・要望は、過去の業務事項にとらわれない様に柔軟に対応している。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	多様な変動に向け調整を行っている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	止もえない退職については、可能な時間での引継ぎを設け、入居者及び家族への信頼関係に影響が及ばない様に努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○人権の尊重	ハローワークを通じての職員採用を行っている。面接に於いても、採用される側の話も丹念に聴く受容体制をとっている。雇用年齢も新採用としては高く、人事考課の運用もあり能力発揮し各職員の力が出せる場・時間をとっている。		
	法人の代表及び管理者は職員の募集・採用にあつたては性別や年齢を理由に対象者からは排除しないようにしている。又事業所で働く職員についてもその能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			
20	○人権教育・啓発活動	社会労務士を講師として人権教育の学習会を予定している。マニュアルの整備は行っており、ミーティングの中でも啓発している。	○	社会労務士より学習会の開催を依頼する。
	法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。			
21	○職員を育てる取り組み	人事考課を活用しており、職員のスキルアップの意欲が持てる様に取り組んでいる。所内外の研修には自発的な参加を促している。		
	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
22	○同業者との交流を通じた向上	大牟田市主催の「あんしん介護相談員」「運営推進会議」「SOS徘徊ネットワーク」他、研修にも参加し、サービスの向上を目指している。		
	運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
23	○職員のストレス軽減に向けた取り組み	職員の休憩時間が大きな課題であったが、時間差により取れる工夫で実践している。		
	運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる			
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み	人事考課により、達成状況にて賞与等に反映させ意欲を持ち働ける職場作りを目指している。運営者も多面に配慮している。		
	運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている			

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	環境が変わる事により不安感で一杯である事を把握しながら、安心できる場所である事を含め、本人の思いを大切にしながら馴染みの関係に努めている。	
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族としての思いや望まれている事を理解し、当ホームでの生活で安心感が伝わり、信頼を得る様努めている。	
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	前、利用されていた施設ケアマネや居宅ケアマネを介して連携し、本人・家族の希望等により、サービスの見極めを行った支援をしている。	
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学により雰囲気を感じ取ってもらう事や、母体のショートステイを利用されてからの移行等で複数の連携を取りながら顔馴染みの関係を構築している。家族との話し合いは充分に取り理解を得る様対応している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者の方々は『家人とは違うが、身近に自分達を心配や身の回りの世話をする者が居る』という事で不安感が薄れていかれている様子。逆に職員の体調を心配されたり、夜勤者には温かい言葉で気遣って頂き和やかな関係である。</p>	
30	<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>これまでの本人の生活歴や、家族介護に於いて苦労された話等を伺いながら、現在の生活状況に繋げている。家族との情報交換により関係を深めている。</p>	
31	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>本人がグループホームで暮らすことで、当ホームがクッションとなり、親子・家族間に新しい発見や温かい思いが湧く、穏やかで和んだ関係に努めている。</p>	
32	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>古くからの知人や、趣味の関係での知人の方々が面会されたりと、再訪問がしやすい環境作りを提供している。</p>	
33	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>大きなトラブルなく生活を送られている。体調を悪くされた方には、皆で心配されたりと思いやりのある環境になっている。</p>	
34	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>母体特養・他保健施設へ移られた方々とは、時折の面会を行ったり、その家族の方も当ホームへ立ち寄りされたりと関係を繋いでいる。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方に合った生活の場を提供し、ゆったりと穏やかな安らぎのある時間を大切にしている。どんな時でも誇りや尊厳のある居心地の良い暮らしが出来る様努めている。	
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族等より聴取した情報を活かし、生活習慣・環境など現状と大きな格差がない様に努めている。	
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の心身状態・本人からの何らかのサインを見逃さないよう察知し、それぞれの方の生活パターンやリズムを把握できる様なケアに努めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の暮らしの中での本人の言葉、ご家族からの希望は職員への申し送りをし、主治医からの情報も含め要望に添える様な計画に努めている。	○ まずは必要性のある所から援助しているが、計画書作成には遅れがある。
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	身体面・生活面での変化等はご家族へ現状の説明を行っている。	○ 定期的な見直しへの作成が進んでいない。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各職員は情報の共有を努めているが、充分は反映とは言えず、要点を明確にする事によりプランに活かす必要がある。	○	情報の共有という点で意識の向上を目標に方法を見出す。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の高齢化、勤務などで殆どの方の医療機関への支援を柔軟に当ホームにより行っている。他、家庭的な方向性としての支援を心掛けている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の民生委員の方々や傾聴ボランティアの協力もあり、関係を繋いでいる。		
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	特養ショートステイを経て入居された方で、対応困難時等には居宅ケアマネに協力を得る事が出来たり、小規模多機能の協力により支援へと結びついた事例がある。		
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	先日にも地域包括支援センター主催の「施設ケアマネ」の学習会があり、参加した。運営推進会議に於いても、多面的なアドバイスを参考となっている。		
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時には書面での確認を行っているが、緊急時や専門性のある時には家族への再確認を行っている。受診同行を希望される場合は、当ホームで行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
47	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
48	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
49	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
50	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
51	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報規定と個人情報の利用目的を明記した書面をホーム内に提示。入居者や御家族に説明し同意を得ている。認知症におけるケアは基本的な介護者のモラルでもあると思う。尊びの念を持つ事を啓発している。	
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日頃の生活の中でもご本人の意思尊重を大切にし、自らの意見を取り入れる働きがけを行っている。	
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方にあった声掛けを心掛け、介護する側の都合にならない様、業務内容も改善している。母体より、管理栄養士・栄養士のアドバイスと特養の献立も参考になっている	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入居者の希望や御家族の協力もあり、美容室へ行かれたり定期的に訪問美容を利用されている。外出時や普段でもお化粧をされる方もおられる。就寝時にはヘヤーカーラーで整髪にも気をつけている。	
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者半数の方々自ら食事の下拵えや配膳引き膳のお手伝いがある。食の楽しさも一緒に分かち合える様職員も同じ食事を摂っている。誕生日には本人の希望を取り入れ喜んで頂いているかと思う。	
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好を一人ひとりに会話の中で聞き取ったり、旬の物を取り入れたメニュー作りを心掛けている。母体と同じく行事食や外注でのお弁当の注文を楽しんで頂いている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個人の排泄のサインを見極め、トイレ誘導の声掛けを行っている。Pパンツ使用の方が必要なくなった実例もある。		
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	これまでの習慣に添う様考慮し、その時の本人の希望を確認して入浴して頂いている。声掛けの工夫や気分転換により、入浴が楽しめるようにと実施している。		
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動により、夜間の睡眠時間が充分とれる様にと支援している。ベッド使用が慣れない方・危険な方には洋室である部屋を和室にし、畳に布団を利用して頂いている。個々の睡眠パターンの把握に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自分でも『まだ出来る事の達成感』やホームの一員としての役割が日々の楽しみになる様支援している。その中から、今ここの生活が無理のない自然な生活リズムになるようにと努力している。		
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を持たれている方は、買い物での支払いをされていたが、最近では自己管理が困難になっておられる為、支援の必要性が出てきた。殆どの方は、ホームで預かっているとの事で本人より途中確認をされる事により安心されている。		
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々は、買物やドライブでの支援を行っている。地域の方にも顔を知って頂く事の目的もあり、近くへ散歩も行っている。		
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	春にはお花見で戸外でのお弁当を楽しんだ。近日中に隣町へマイクロバスでの外出を皆さん楽しみにしておられる。お一人の方は、永年続けられている詩吟の会へ毎月2回御家族同行で出掛けられている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の電話の声にて安心される方には、希望に応じ支援を行っている。	
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問される方は多く、自宅近隣だった友人も来られ、外食もされている。御家族も頻繁に面会され、自室やリビングで一緒に過ごされる。職員も気持ち良く迎え入れ本人と一緒に再来の声掛けをしている。	
(4) 安心と安全を支える支援			
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ間で課題とし、より良い介護が出来る様心がけている。車椅子利用者の方もリビングでは肘付椅子に移乗して頂いている。	
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	特に気を付けている点であり、玄関は自動ドアになっていてスタッフ同行でいつでも出掛けられる様心掛けている。夜間のみ居室は安全対策として2重ロックにさせて頂いている。	
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員の言葉により自尊心を傷つけない様、声のトーン等にも注意し全員が工夫を凝らした声掛けを行っている。夜間も不穩に繋がらないよう努めている。	
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状態に応じ、お金の管理・ハサミの管理をされておられる。保管の確認を含め、一緒に整理等させて頂いている。	
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	法人研修によりリスクマネジメントの研修に参加。現実ヒヤリハット及び転倒事故があったが、事例検討により防止対策等を重視し、危機感を持つ必要がある。	○ リスクを十分に考慮し、同じことが無い様強い意識を持つ。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成し、確認を行っている。防災連絡方法は母体とも連携しており、徹底を図っている。		
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	各スタッフ、マニュアルを定期的に確認している。また、夜勤帯での事故を想定し、シュミレーションを行っている。運営推進会議を通して近隣への協力の声掛けを行っている。		
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時や電話にて日常の状況をお伝えし、日常生活の中でも時には危険性があることを充分説明し理解を得ている。ご本人様には抑圧感のないよう対応している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	全スタッフ、各入居者様の観察を常に行い、体調変化の把握を行っている。本人の訴えに対しても耳を傾けている。症状に応じて病院受診や処置の対応をしている。		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報を確認し、用法・用量の理解に努めている。服薬変更時には必ず記録し、申し送っている。個々の体調変化の観察を常に行っている。		
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	調理の面において、繊維の多い食物を取り入れ対応している。便秘が続く時はかかりつけ医に相談している。午前にはリビングにて軽体操を行っている。		
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自己にて習慣となられている方もいる。他の方はスタッフの声掛け・介助にて行っている。異状時は、訪問歯科医へ連絡し、治療・指導を受けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時や食間の水分補給は必ず提供している。各入居者様に合わせた食事(普通・刻み)提供を行っている。野菜を多く取り入れたメニュー作りや入居者様の希望も取り入れ作成している。禁忌食の方々にも対応している。		
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルを活用し、対策を行っている。インフルエンザ予防接種は、スタッフは毎年、入居者様は家族判断・許可を頂き、毎年行っている。スタッフは毎月細菌検査を行っている。		
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	肉・魚・豆腐類は本体と同じく信頼できるお店から購入している。他食材は新鮮なお店を選び、毎日買物に出掛け、まとめ買いには注意している。調理用具は毎夜消毒し清潔を保っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	緩くなだらかなスロープには手すりを設置。母体特養と向かい合わせになっている為、訪問もしやすくなっている。近隣の方は台所勝手口より立ち寄られる。		
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	南向きのリビングには日光調節のロールカーテンを設置。対面式の台所には常時集まれ、同じ時間を過ごされる方が多い。共同作業で広めの緋のタペストリーを作り、季節の飾り付けを楽しんでいる。		
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで過ごされる方が多く、共有の時間が自然体で流れている。中には時計を見ながら自室・リビングを移動されゆっくりとした時を作っておられる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
86	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
87	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
88	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
89	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
100	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

大牟田市の北部に位置する当ホームは、閑静な住宅地に隣接しています。周辺は自然も多く、入居者の方々には落ち着く環境で、穏やかな生活を送って頂いているのではないかと思います。併設である特養老人ホーム・デイサービスとも一緒に夏祭りや運動会・誕生会等々多くの行事を楽しめるという利点もあり、地域的にもその中には古くからの知人が居られたり、新しく人との出会いもあり、人との温もりの安心感と母体特養という大器の中でゆっくりと守られている感が伝わる様努めております。この様に四季の変化でその時間を肌で感じて「今を大切に」して頂く環境作りのお手伝いが出来ればと思います。御家族の力添えも多く、職員と共に皆様を見守り、その中で揺るぎない時間を過ごして頂き、家庭的な生活の支援を目指しております。健康面では医療機関との連携を取り、痛みや不快感のない毎日を送って頂ける様寄り添いながらケアに取り組んでおります。